

ふるさとの文化・歴史に触れてみよう！

# 史跡めぐり歩こう大会

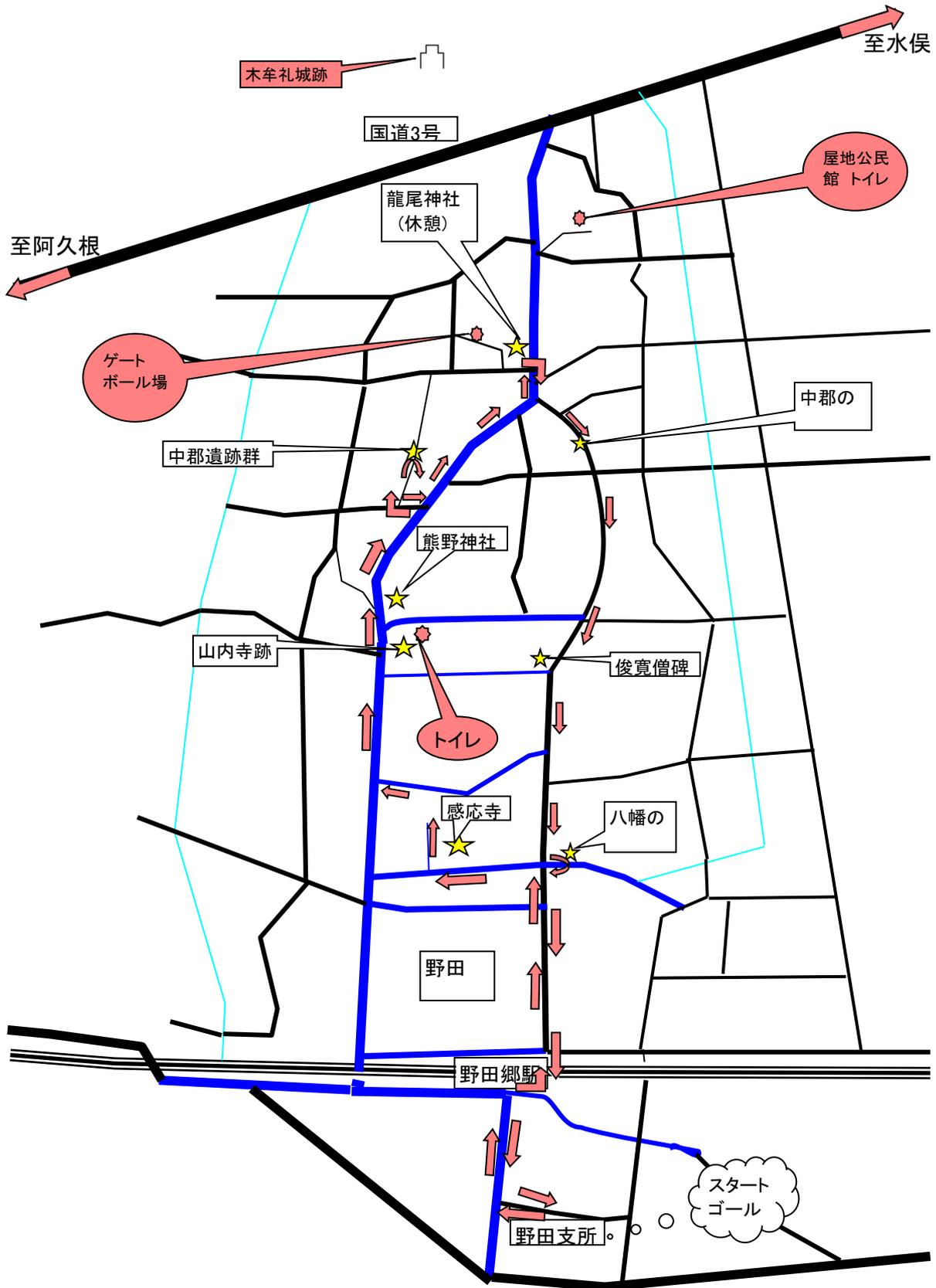
(平成22年度、野田地区編)

- 先人が残した名所、旧跡を訪ね、ふるさとの文化や歴史についてもっと知ろう
- 郷土の景観や自然にふれ、ふるさを愛する豊かな心を育てよう
- 体を動かして、健康増進を図ろう

	日	程
期 日	○平成22年5月23日(日)	
受 付	.....	8:20~8:55
	○ 出欠確認、資料配布	
開 会	.....	9:00~9:10
	○ 出水市教育委員会教育長挨拶	
	○ 講師の紹介	
	○ 行程説明、諸注意	
スタート	.....	9:15
	○ 野田支所駐車場 ⇒ 感応寺 ⇒ 山内寺跡 ⇒	
	熊野神社 ⇒ 中郡遺跡群 ⇒ 龍尾神社(休憩) ⇒	
	中郡の田ノ神様 ⇒ 俊寛僧都碑 ⇒ 八幡の庚申碑 ⇒	
	ゴール	
到 着	.....	12:00
	○ 閉会の挨拶	
	○ 解 散.....	(12:10)

主 催	出水市、出水市教育委員会
協 力	感応寺、屋地自治会
連絡先	出水市文化町23番地
	出水市教育委員会生涯学習課 電話63-2106 FAX64-1105

# 平成22年度史跡めぐり歩こう大会コース図



## 注意事項

- 1 2列縦隊で、歩道のあるところは歩道を歩いてください。
- 2 道路を横断するときは、係員の指示に従ってください。
- 3 途中、気分や具合が悪くなった場合や、やむを得ず途中で帰宅される方は、近くの係員にお知らせください。

## ① 感応寺の文化財

### ● じゅういちめんせんじゅかんのん わきだちしてんのうぞう 十一面千手観音・脇立四天王像

建久5年（1194年）に創建された感応寺の本尊である。廃仏毀釈の際に多くの仏像が破壊されたが、当時の人々によって大切に守られ現在にいたる。平成元年に国宝修理所京都美術院で修理が行なわれた際、文安2年（1445年）に定朝三派（慶派、院派、円派）の院派の仏師院隆によって作成されたことが判明した。

（昭和36年6月17日県指定文化財）



### ● けんぽんちよしよく 絹本著色雲山和尚像

雲山和尚は島津貞久公(5代)の命を請けて感応寺の復興にあたった中興開山で、讃文中には、足利尊氏公が和尚を称えた（さぞなげに都の遠き山の端に曇らぬ月のひとりすむらむ）の和歌も書かれている。10代徹堂和尚の時代に作られたものであり、県内最古の頂相（禅僧の肖像画）である。

（昭和56年3月27日県指定文化財）



### ● ごびょうしゃ 感応寺五廟社

五廟社とは、島津初代から5代までの墓のことで、初代から4代までは鎌倉時代、5代は南北朝時代初期に建立された。薩摩藩26代藩主斉宣が石塔に廟堂を建立したが、現存していない。廃仏毀釈の際は法名を神名に変え、明治8年に現在の形となる。明治13年に感応寺復興以後、寺で管理している。寺では毎年7月17日に六月灯を執り行い、島津5代の慰霊を行なっている。

（昭和61年4月1日市指定文化財）



### ● 感応寺の仁王像

感応寺代 28 代直応和尚の時、堀兵左エ門からの寄贈で、寛延 4 年（1751 年）に建立された。作者は不明である。石像の密迹金剛力士像（右を那羅延金剛ともいう）仁王は仏教を守る神としてインドの 16 大王に形どった金剛力士で寺の門に建てられている。後背に熊野権現とあるのは、廃仏毀釈の法難を避けようとする偽装ではないかと言われている。

（昭和 61 年 4 月 1 日市指定文化財）



### ● 感応寺のソテツ

このソテツは、永禄 10 年（1597 年）に感応寺の第 18 代茂林和尚が阿久根の楞嚴寺に隠居中、薩州島津家 6 代義虎の文船使者として琉球に赴いた際、帰りに中山王から贈られたもので、葉の付け根の切除跡から推測しても 400 年前後の樹齢と考えられ、歴史的背景もあり、植物学的観点から考察しても価値の高いものである。

（平成 13 年 7 月 10 日市指定文化財）



## ② <sup>やまちじ</sup> 山内寺跡

性空上人の開山による山門院の古寺で、境内は 3 町（3 ヘクタール）余りで壮大な御堂があったと伝えられる。建久 7 年（1196 年）島津忠久公が山門院の木牟礼城を居城とし、山内寺に知行八町歩を与え祈願時とした。後に山門院も出水薩州家の支配下に入り、亀ヶ城主島津忠辰公が祈願時を成願寺に移したため、寺は衰えることとなり、また天正年間豊臣秀吉進攻の時と元禄時代に火災があり、貴重な古記録、仏像、本殿などが焼失し、その創立の年号もわからなくなってしまった。

### ③ 熊野神社

島津忠久公が封につき(1186年)、木牟礼城にいた時に建立されたものと言われている。以後島津光久、綱貴公の頃(1640年)にも修復された記録が残っている。例祭は11月9日で、昔から町内ではこの日、方祭(野田祭)として祝ったものである。

### ④ 中郡遺跡群

この地は木牟礼城跡に向かい合う台地にあり、島津初代忠久公が薩摩大隈の統治拠点とした屋形跡だと伝えられる。忠久公は1185年に薩摩、大隈、日向にまたがる荘園「島津荘」の下司職に任命された。

昨年の県の発掘調査において、堀跡や計9棟の建物跡が確認された。また、中国産の極めて希少な青白磁の水差し「龍首水注」の注ぎ口の一部が出土している。「龍首水注」は全国でも、政治の中心地だった鎌倉のほか、日向市やえびの市などでしか出土例がない極めて珍しい貿易陶磁器で、県内では初めての出土である。

## ⑤ 龍尾神社

祭神は伊弉諾尊いざなぎと島津忠久公で、若宮神社とも言う。寛政2年（1790年）島津氏26代齊宣公の時、寺社令によって再建された。

昔の社殿は、西隣の丘から連なる高台の上にあつて、38段の石段を登っていたが、戦後現在の地に移された。

## ⑥ 中郡の田ノ神様

「タノカンサマ」と親しまれる田ノ神は、旧薩摩領に2千体以上あると言われ、新田開発の記念とか、風水害・旱魃の除災招福のために、農耕神として建立された。この田ノ神は江戸時代に建立されたもので、右手に「飯げ」左手に「椀」を持っている。

（昭和61年4月1日市指定文化財）



## ⑦ 俊寛僧都菩提碑しゅんかんそうず

平家物語によると、俊寛僧は、平清盛の専横を憎み、平家を滅ぼそうと陰謀を企てたが発覚し、同士の藤原成経、平判官康頼とともに硫黄島へ配流された。その後藤原成経、平判官康頼は許され京に帰ったが、俊寛は重罪として独り島に残された。伝説によると、その後俊寛は救われて密かに島を脱出するが、舟中で病になり、荒崎で舟を降り、山内寺で隠棲中に死亡し、ここに葬られたと伝えられている。墓は元、土塚であったが野田の住人吉富十郎左衛門が500年忌にあたる延宝五年（1677年）に石碑を建てて祀ったものである。

（昭和61年4月1日市指定文化財）



## ⑧ 八幡の庚申碑<sup>こうしんひ</sup>

庚申碑とは中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石碑のことで、この碑は宝暦14年（1764年）に建立されたものである。庚申信仰では十干<sup>かん</sup>・十二支の組み合わせにより60日で一巡する庚申<sup>かのえさる</sup>の日に、人体中の三尸虫<sup>さんし</sup>が睡眠中に天上に昇って、天帝に人間の罪過を訴えると信じられていた。その虫が人体から出るのを防ぐために、夜を徹して仏教音楽や念仏行道を行うことが貴族社会において平安時代以来盛んになる。それに仏教・神道、また民間では待日<sup>まちび</sup>（十五日・二十三夜待）が習合し、一般にも広まった。

（昭和61年4月1日市指定文化財）



### 《参考資料》

#### 三国名勝図会<sup>さんごくめいしょうずゑ</sup>

江戸時代後期に薩摩藩が編集した薩摩国、大隈国、及び日向国の一部を含む領内の地誌や名所を記した文書。特に、神社や寺院についてはその由緒、建物の配置図や外観の挿絵まで詳細に記載されている。また各地の名所風景を描いた挿絵も多く、当時の薩摩藩領内の様子を知ることが出来る貴重な資料である。全60巻。